

アブラハム ②

□アブラハムの信仰の手本

1. 約束の地を与えるという神の召しに応答して、行先を知らずに、生まれ故郷を離れた
2. **約束の地に入っても、寄留者の立場を甘んじて受けて、忍耐し続けた**
3. 子が生まれるという神の約束を、不可能でも信じた
4. 土地の約束と子孫の約束は、アブラハムに復活を確信させることになった。アブラハムは、約束の子イサクを捧げることを通して、復活信仰を表明した
5. 目の前の土地ではなく、より優る国、神の都を求めた

□本日の内容・・・アブラハムの信仰の手本の2番目

【約束の地に入っても、寄留者の立場を甘んじて受けて、忍耐し続けた】

- (1) 約束の地を与えるという神の召し（土地の約束、子孫の約束、祝福の約束）

創世記 12：1～3 *あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。*

- (2) アブラハムは、75歳で約束の地に入り、175歳で死ぬまで、天幕生活をした。彼はヘブロン（創世記 13：18）やベエル・シェバ（創世記 22：19）に天幕を張った。

- (3) ベエル・シェバは、約束の地の南端。その地域を支配していたのは、地中海沿岸地域を本拠地としていたペリシテ人。その王はアビレメク。

アブラハムは、せっかく掘った井戸をアビレメクの部下に奪われたが、その場では争いを避けた。

その後、神がアブラハムを守り、よくしてくださっていることは、ペリシテ人たちの目にも明らかとなった。畏怖の念をもったアビレメクは、アブラハムと友好を誓う契約を結んだ。そして、井戸はアブラハムに返還された。（創世記 21：22～34）。

神がアブラハムに約束されたとおり、祝福の約束のゆえであった。

- (4) 神の約束（アブラハム契約）を継承したのは、子のイサク、そして孫のヤコブ。イサクが生まれたとき、アブラハムは100歳。孫のヤコブが生まれたとき、アブラハムは160歳で、まだ健在。イサクも天幕生活をした（創世記 24：62、67）。ヤコブも天幕生活をした（創世記 25：27）。
- (5) アブラハムは、イサクが生まれる前に、神から預言を受け取っていた。

「あなたの子孫は、自分たちのものではない地で寄留者となり、四百年の間、奴隷となって苦しめられる。しかし、彼らが奴隷として仕えるその国を、わたしはさばく。その後、彼らは多くの財産とともに、そこから出て来る。あなたは自身は、平安のうちに先祖のもとに行く。あなたは幸せな晩年を過ごして葬られる。そして、四代目の者たちがここに帰って来る。それは、アモリ人の咎が、その時まで満ちることがないからである。」（創世記 15：13～16）

- (6) アブラハムがその生存中に所有した地は、妻サラを葬るための墓地だけであった。それも対価を払って買い取った（創世記 23章）。
- その墓に、サラ、アブラハム、リベカ、イサク、レア、ヤコブ（創世記 49：31、50：13）の順で葬られた。
- (7) ヘブル 11：9 は次のように記す。「信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束をともに受け継ぐイサクやヤコブと天幕生活をしました。」

□本日の勧め

アブラハムは、75歳で約束の地に入り、175歳で死ぬまで、他国人のようにして寄留し続けました。

それができたのは、神の約束は必ず成就する、それまでに自分が死んだとしても、神は自分を復活させて、この約束の地に立たせてくださる、と信じたからです。

私たちが神の約束を受け取るために必要なのは、神への信頼と忍耐です。